

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称(製品コード) : ラスベネ C (記号: RP-C・品番 A122)
会社名称 : 株式会社 和光ケミカル
住所 : 神奈川県小田原市南鴨宮 1-1-1
電話番号 : 0465-48-2211(代)
FAX 番号 : 0465-49-1951
緊急連絡電話番号 : 技術部(電話: 0465-48-8114)
推奨用途及び使用上の制限 : ●各種ボルト、ナットのゆるめと防錆。●印刷、製紙、紡績機等の摺動面潤滑。●アクセルワイヤ、エア工具等の潤滑。●各種部品の潤滑と防錆、及び撥水【業務用】
作成日 : 2019年1月10日 (2023年4月1日 改訂第3版)
整理番号 : A122-J03

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

エアゾール	区分 1
皮膚腐食性/刺激性	区分 2
誤えん有害性	区分 1
水生環境有害性 短期(急性)	区分 2
水生環境有害性 長期(慢性)	区分 2

※記載のないものは区分に該当しない、または分類できない

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報

- H222: 極めて可燃性の高いエアゾール
- H229: 高压容器: 熱すると破裂のおそれ
- H315: 皮膚刺激
- H304: 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
- H401: 水生生物に毒性
- H411: 長期継続的影響により水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

- P210: 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- P211: 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
- P251: 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
- P264: 取扱い後は手を良く洗うこと。
- P273: 環境への放出を避けること。
- P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

- P301+P310: 飲み込んだ場合; 直ちに医師に連絡すること。
- P302+P352: 皮膚に付着した場合: 多量の水と石けんで洗うこと。
- P331: 吐かせないこと。
- P332+P313: 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。
- P362+P364: 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- P391: 漏出物を回収すること。

【保管】

- P405: 施錠して保管すること。
- P410+P412: 日光から遮断し、50°C以上の温度にばく露しないこと。

【廃棄】

- P501: 内容物/容器を国際条約や国/都道府県/市町村の規則に従い廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| • 潤滑油基油 | 企業秘密の記載できない (wt.%) |
| • 潤滑油添加剤 | 企業秘密の記載できない (wt.%) |
| • 炭化水素系溶剤 | 企業秘密の記載できない (wt.%) |
| • 噴射剤 (CO ₂) | 企業秘密の記載できない (wt.%) |

危険有害成分及び含有率 :

化合物名	CAS-No.	官報公示整理番号(化審法)	労働安全衛生法(政令No.等)	PRTR法(管理番号)	含有率(Wt.%)
鉱油※1	混合物の為に記載できない	登録済	168	非該当	10~20
炭化水素系溶剤※2(石油ナフサ)	混合物の為に記載できない	登録済	330	非該当	60~70
ノナン(異性体を含む) ノルマルノナン	111-84-2 他	(2)-9	432	非該当 2種(791)※3	1~5 <1
ミネラルスピリット	混合物の為に記載できない	登録済	330	非該当	<5
イソヘキサン	96-14-0 107-83-5 75-83-2 79-29-8	(2)-6	520	非該当	<1

※1 鉱油 : IP346法によるDMSO抽出物質が3質量%未満。

※2 炭化水素系溶剤 : CAS-No.からは石油ナフサに相当するが、合成炭化水素であり有機則の第3種有機溶剤には該当しない。

※3 第2種指定化学物質だが、含有濃度はPRTR対象濃度に満たないため製品としては非該当。

4. 応急措置
- 眼に入った場合 : 直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗うこと。容易に外せるならコンタクトレンズなどは外す。痛みが残るときは直ちに医師の診察を受けること。
 - 皮膚に付着した場合 : 付着物を布にて素早く拭き取る。大量の水及び石けんまたは皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。外観に変化が見られたり痛みがある場合は、医師の診察を受ける。
 - 吸入した場合 : 蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が不規則か、止まっている場合には人工呼吸を行う。嘔吐物は飲み込ませない。直ちに医師の手当てを受けること。
 - 飲み込んだ場合 : 誤って飲み込んだ場合には安静にして直ちに医師の診察を受ける。無理に吐かせないこと。また嘔吐物は飲み込ませないこと。

5. 火災時の措置
- 消火方法 : 火元へのガス燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。
: 注水は燃焼を拡大することがあるので禁止する。
: 水スプレーで周辺のタンク、建物を冷却し、延焼を防止する。
: 水スプレーは発生するガスを拡散したり、消火作業に従事している人を保護するものにも使用する。
: 発生するガスや燃焼生成物の吸入を抑えるために、消火作業は風上から行い、密封空間や通風の悪い場所など、必要に応じて吸気式呼吸器を着用する。
 - 消火剤 : 霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガスが有効である。
: 消火に棒状の水を用いてはならない。

6. 漏出時の措置
- : 作業の際は適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル)等を着用する。
 - : 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
 - : 付近の着火源、高温体及び可燃物を取り除く。
 - : 流出物は、火花が発生しないように、プラスチック製の用具を用いて密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。
 - : 単独での回収が困難な場合は、乾薪、土、その他不燃性のものを回収させて回収する。
 - : 付着物、廃棄物等は、関係法規に基づいて処置をする事。
 - : 河川等へ排出され、環境への影響を起ささないように注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意
- 共通事項 : 指定数量以上の量を取り扱う場合には法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。
 - 取扱上の注意 : 室内で取扱いを行う場合は、十分な換気を行う。
: 容器を転倒させたり、衝撃を与える等の粗暴な取扱いはしない。
: 一度栓を開けた容器は必ず密栓をしておく事。
: 炎、火花又は高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発生させない。
: 常温で取り扱うものとし、その際、水分、きょう雑物の混入に注意すること。

石油製品から発生した蒸気は空気より重いので滞留しやすい。そのため換気及び火気への注意が必要である。
 危険物が残存している機械設備などを修理または加工する場合は、安全な場所で危険物を完全に除去してから行うこと。
 保管上の注意 : 冷暗所で換気の良い場所に保管する。
 危険物の表示をして保管する。
 類の異なる危険物は同一の貯蔵所において貯蔵しないこと。
 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。

8. ばく露防止及び保護措置

化合物名	CAS-No.	管理濃度	ACGIH TLVs		日本産業衛生学会 TLV
			TWA	STEL	
鉱油	混合物の為に記載できない	——	5mg/m ³ (鉱油ミストとして)	——	3mg/m ³ (鉱油ミストとして)
ノナン	111-84-2	——	200 ppm	——	200 ppm
ミネラルスピリット	混合物の為に記載できない	——	300 ppm	500 ppm	100 ppm

設備対策 : 屋内作業場は、排気装置を設置する。
 取り扱い場所の近辺に、洗眼・身体洗浄のための設備を設ける。
 保護具 : 必要に応じて保護眼鏡、耐油性保護手袋、保護衣、呼吸用保護具等を使用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観等 : 褐色液体、わずかな石油臭。
 沸点 : データなし
 蒸気圧 : データなし
 蒸気密度 : >1 (炭化水素系溶剤)
 密度 (15°C) : 0.79~0.81 g/cm³
 動粘度 (40°C) : 2.0~4.0mm²/s
 引火点 : 35~55°C
 発火点 : データなし
 爆発範囲 : 上限 7% 下限 1% (推定)
 溶解性 : 水に不溶

10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常の手配では安定
 可燃性 : あり
 自然発火性 : なし
 水との反応 : なし
 酸化性 : なし
 自己反応性・爆発性 : なし

11. 有害性情報

製品としてのデータはない。成分ごとのデータおよび GHS 区分より判定した。
 記載無きものは GHS 分類でカットオフ値以下のものか、知見なし、あるいはデータなし。
 急性毒性 (経口) : 成分および組成より区分に該当しないと判断した。
 LD50 >5000 mg/kg (ラット経口: 推定)
 急性毒性 (経皮) : 現在のところ有用なデータなし。
 急性毒性 (吸入) : 現在のところ有用なデータなし。
 皮膚腐食性/刺激性 : 成分及び処方より区分 2 と判断した。
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 現在のところ有用なデータなし。
 呼吸器感作性 : 現在のところ有用なデータなし。
 皮膚感作性 : 現在のところ有用なデータなし。
 生殖細胞変異原性 : 現在のところ有用なデータなし。
 発がん性 : 現在のところ有用なデータなし。
 生殖毒性 : 現在のところ有用なデータなし。
 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 現在のところ有用なデータなし。
 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 現在のところ有用なデータなし。
 誤えん有害性 : エアゾールであるが、圧縮ガス噴射剤により液状態で吐出されるため、原液の物性および組成から区分 1 と判断した。

12. 環境影響情報	製品としてのデータはない。成分ごとのデータおよび GHS 区分より判定した。 記載無きものは GHS 分類でカットオフ値以下のものか、知見なし、あるいはデータなし。 生態毒性 水生環境有害性短期(急性) : 成分および組成より区分 2 と判断した。 水生環境有害性長期(慢性) : 成分および組成より区分 2 と判断した。 残留性・分解性 : 現在のところ有用なデータなし。 生体蓄積性 : 現在のところ有用なデータなし。 土壌中の移動性 : 現在のところ有用なデータなし。 オゾン層への有害性 : オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書リストに掲載なし。
------------	--

13. 廃棄上の注意	1. 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、または知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 2. 投棄禁止 3. 埋め立て処分を行う場合には、あらかじめ焼却し、その燃え殻について下記の物質が総務省で定めた基準以下であることを確認しなければならない。 銅またはその化合物、亜鉛またはその化合物、ひ素化合物、アルキル水銀化合物、水銀またはその化合物、ヒ素またはその化合物、六価クロム化合物、有機りん化合物、鉛またはその化合物、カドミウムまたはその化合物、シアン化合物、PCB。 4. 燃焼する場合は、安全な場所で、かつ燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼすおそれのない方法で行うとともに、見張り人を付けること。 5. 廃棄時における関係法規 ・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律・廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令・危険物の規制に関する政令・金属等を含む産業廃棄物に関する判定基準を定める環境省令
------------	---

14. 輸送上の注意	注意事項 : 取り扱いおよび保管上の注意の項の記載に従うこと 容器漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷の内容に積み込み、荷崩れ防止を確実にこなうこと。 国連規制 : 国連番号…UN-1950 国連分類…Class 2.1 (可燃性エアゾール) 容器分類…— 指針番号…126 海上輸送に関しては IMO、航空輸送に関しては ICAO/IATA の規定に従う。 国内規制 : 陸上輸送…消防法、安衛法などに定められている運送方法に従う 海上輸送…船舶安全法に定められている運送方法に従う 航空輸送…航空法に定められている運送方法に従う
------------	---

15. 適用法令	労働安全衛生法 : 危険物(令別表第 1) に該当する(可燃性のガス、引火性の物) 法 57 条 政令 18 条 第 1 号 別表 9 に該当する成分を含有する。 ・ 表示対象濃度以上…ミネラルスピリット、鉱油、石油ナフサ※、ノナン ・ 通知対象濃度以上…ヘキサン 有機溶剤中毒予防規則(施行令別表 6 の 2) に該当しない。 ※本品に含まれる炭化水素系溶剤は、CAS-No.からは石油ナフサに相当するものの、石油から精製された物ではなく、ガスから合成された物である。よって労働安全衛生法の表示・通知義務対象物質に該当するが、PRTR 法及び有機溶剤予防規則の第 3 種有機溶剤には該当しない。 化管法 (PRTR 法) : 第 2 種指定化学物質を含有する。 ・ ノルマルノナン (PRTR 対象濃度未満のため非該当) 消防法 : 危険物 第 4 類第 2 石油類 (非水溶性) 危険等級 III 毒物及び劇物取締法 : 非該当 高压ガス保安法 : 適用除外 (液化ガス、可燃性ガス) 船舶安全法 : 危険物 (高压ガス、引火性液体) 航空法 : 危険物 (施行規則第 194 条 危険物告示別表第 1 : 高压ガス、引火性液体) 海洋汚染防止法 : ばら積み貨物でないので製品としては非該当。油分排出規制 水質汚濁防止法 : 油分排出規制 下水道法 : 鉱油類排出規制
----------	--

16. その他の情報	RoHS 指令有害物質 : いずれも意図的な含有なし ELV 指令有害物質 : いずれも意図的な含有なし 引用文献 : ①原料メーカー SDS ②製品評価技術基盤機構ホームページ
------------	--

③法律に関するホームページ

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として提供されるものです。取扱者はこれを参考とし、自らの責任において個々の取扱いの実態に合わせた処置を講ずることが必要であり、これを理解した上で活用して下さい。従って、本データシートそのものは安全の保証書ではありません。